※いずれの場合も、必ずA3片面1枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは5MB以下としてください。

エントリー名:柳内 祐樹

学校名:近江八幡市立八幡中学校

活動名:生徒の声を出発点にした授業改善

~「信頼」と「楽しい」で働きがいを再構築~

解決すべき課題:負のサイクル(右図)が生じ、課題が山積。

- 1. 多忙感により授業改善が進まない。
- 2. 教員間に現状に満足する雰囲気がある。
- 3. 学校全体に閉塞感がある。
- 4. 生徒の授業への信頼が揺らいでいる。

目標:★負のサイクルから脱却し、教員の働きがいを再構築し、 生徒が生き生きと授業に取り組む学校を実現する。

> ★向上心あふれる教員集団に変貌することによって、閉 塞感を打開する。

方針:「生徒の声×教員の協働」

- ①「生徒の声」を出発点にした授業改善こそが、生徒の 「信頼」を取り戻す。→全校授業評価アンケート
- ②「教員の協働」により「楽しい」を生み出し多忙感を 解消する。→G-OJT(グルーピングによるOJT)
- ③生徒からの「信頼」は教員の働きがいの源に、「楽し い」は働きがいを増幅し、授業改善に前向きに取り組 む学校文化を醸成する。→先進校との比較調査で検証

☆よかったところ ★お願いしたいこと

毎日トラストゥツ ノナモが内壁をは時

(作者) あつる产行。 でしゃてをでるるからなれてはい

語の意味ない瀬足 皇板の字をか

多忙感に敗北 受業改善 動きがいDOWN

全校授業評価 アンケート

G - OJT

「生徒の声 × 教員の協働」

信頼

楽しい

教員の働きがいを再構築

授業改善で一人一人が輝く

【 活動の構想図 】

活動内容:活動のポイントおよび工夫と予想される困難

A 全校授業評価アンケート

- ・全校生徒に全教科の授業に対するアンケート を実施し、「生徒の声」を出発点にした授業 改善で、生徒の「信頼」を取り戻す活動。
- 数値による評価と、 自由記述の両方を 実施。
- ・年間2回の実施。

工夫

→「生徒の声」を色 濃く反映する「自 由記述」を重視。

予想される困難

- ●生徒による評価に
- 2生徒の不真面目な 記述。
- 検索中に前の復習 よくわからないプリント (などを為く取り入れ所、な(課態)不必要です。 くじの指名割で皆 音楽 雰囲気がないから 如歌天猫 するかつりたトンかりましいの 個人のハルスで 然いです。 達がられるがり。 まいへのースの様とかから 無いです。 本は集中してといくなか 先生が色ななるとを観か と"され"重要が できて散みてくれるが、 なくわからない 抵抗感を示す教員。 はは いろんフェ競技種目の 顔をあいるがでするか 体験がですがん グループをまなてほしい ALTもな哲学等に見て まかれほしい。
- ❸生徒からの人気・不人気の指標となり、教員 間に溝ができる恐れ。

B G-OJT

- 全教員を4名ずつにグルーピングし、 「教員の協働」体制を作ることで、授業 改善が「楽しい」を生み出す活動。
- ・研究推進チームと連携し、研究会として 月1回の継続実施。 円卓んの活用がすべ

工夫

話に合っている! いり見いりにこ よらたはしより、クループへメンバー →教員各自が授業改善 たっので流、意思な重 につなれる たっといれた。たっしかた対②

- のテーマを決定することで主体性発揮。
- →似たテーマ同士のグルーピングで、「一 緒にやるから安心」や「共に学び合 う」といったポジティブ効果を生む。
- →「円卓ん」活用による対話の活性化。

予想される困難

- ●中学校特有の 教科の壁。
- 2多忙による 公開授業回避。



❸教員間の実践意欲の格差。

※事務局記入欄

No.113

取組の過程:予想した困難の解決策と活動の進展

- **①**生徒による評価に抵抗感を示す教員。
- →目的を丁寧に提案し、アンケート結果の 公表は行わないことや人事評価には反映 させないことを確認した上で合意形成。
- 2生徒の不真面目な記述。
- →生徒への丁寧な趣意説明。
- →教員は、生徒の真剣な記述を読んで、生 徒から期待されていることを実感。

●中学校特有の教科の壁。

- →教科横断的なグルーピング。
- →指導法でなく、生徒の姿に着目し、生徒を

主語にした研究会の実施。 2多忙による公開授業回避。

→空き時間を見える化し、 共に授業を観合う機会と 時間の確保。

❸教員間の実践意欲の格差。



【様式2】

❸教員間に溝ができる恐れ。

- →記述の表面的な部分でなくその背景に着目することを共有。ませいでは、あるいでは近く教師を定
- →バランスのとれた年齢構成を実現したグルーピング。
- 明うし授業の中で、女対部が治発で、そこで理解が →研究会におけるお互いの工夫や実践を認め合う場面の設定。 みろれるようでである 自命ででは、といる おいました 自命ででは、といる おいました といる おいました おいました おいました おいました おいました おいました おいました おいましん おいました おいまれる かいました おいました おいました おいました おいました おいました はいました おいました はいました おいました はいました はいまた はいました かるらいなるることに、まいてち自動身がより歩くはかって
- \rightarrow ベテランほど実践意欲が高まり、グループをリード(右上図:50 代教員の記述)。

「信頼」は、生徒を信頼することから 「楽しい」は、教員間の意思疎诵から

- ○全校授業評価アンケートとG-OJTが**相乗効果**となって授業改善が前進。
- ○八幡中学校の活動を周りに知ってほしいという機運が高まる。
- ◎自主研究発表大会の実施(右図:研究発表大会二次案内)。
- ⇒ 県教委や市教委、近隣校などから評価されたことが**教員の自信と誇り**。
- ⇒アウトプットの場があることでさらなる働きがいが構築される。

⇒地域・保護者・学

校が、学校の課題

について熟議する

サミットの開催。

活動の成果:働きがいの再構築

1. 多忙でも授業改善が推進

⇒先進校との比較調査が 77%→97%に 上昇 (先進校 新潟市立白新中学校と

⇒自主研究発表大会の3年連続開催。



3. 学校全体を包む躍動感

同水準)。 生徒の信頼

2. チャレンジする教員集団へと変貌

- ⇒「生徒の声」に応えようとする、常に向 上心を持った教員集団。 生徒による全校授業評価アンケート
- ⇒教員が入れ替わっても、

継続・発展する 28% 全校授業評価ア

0% atv 67%

ンケートとG一〇JT。

4. 生徒の授業への信頼回復

⇒学校評価の生徒の 数値が 69%→80% に上昇(保護者も)。

⇒生徒の授業に対する 信頼の記述。



先生の検案が針はむく工夫されていて、

5. 生徒も教員も一人一人が輝く学校の実現 それももになり率がよいものでいつも楽しくを栄養しけるってができます。

☆正のサイクルが回り、教員の働きがいが再構築され、生徒が生き生きと授業に参加。 ☆チャレンジする教員集団が生み出す躍動感がハイブリッド型のオンライン授業を実現。

∞ 生徒の声を出発点にして教員が協働することで、学校が変わる!生徒凄い!教員凄い!

